

# さつきやま魂

崎山中学校だより  
8月4日 第8号  
文責 校長 山下



## 「当たり前」の中の「有り難さ」を実感した1学期

今日で1学期が終了しました。今年の1学期は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、緊急事態宣言が出され、臨時休業が実施されるなど、過去に例のない年度のスタートとなりました。そのため、様々な行事が中止や延期となり、残念な思いをした人も多かったと思います。そのような思いも含めて、今日の終業式では、1年代表の藤尾君、2年代表の



原田さん、3年代表の入江さんが、1学期を振り返り、向上したところや課題をしっかりと発表してくれました。発表を聞きながら、それぞれの学年が確実に成長していることを実感しました。私からは、次のような話をしました。

「・・・コロナ禍の中で、みなさんは何を学びましたか。私は、これまで『当たり前』と生きていたことが、実は『当たり前』ではなかったということを実感しました。例えば、『毎日学校へ通って、教室で勉強したり、友だちと遊んだりできること』・・・(中略)・・・」

このように、みなさんは、今までにないことを経験しています。今年の夏休みはいつもより短くなりますが、ただ何となく夏休みを過ごすのではなく、今までの経験から多くのことを考え、学んでほしいと思います。そこで、大きな二つのことをお願いいたします。一つ目は、『家族の一員、社会の一員として、自分ができることを考えること』、そして実行することを意識してほしい。二つ目は、『感染拡大防止のため、自分や家族の将来のために、やるべきことを実践してください。一つ目は、『2学期の始業式には、全員が元気に登校すること』です。そのためには、『ソーシャルディスタンス、マスク着用、手洗い』という新しい生活様式はもちろん、熱中症等に十分気を付けて、事故に遭わず、病気になるないようにしてください。命よりも大切なものはこの世にありません。」

## 主体的な「募金活動」

7月上旬の九州南部を中心とした豪雨被害を受けて、生徒会を中心に「募金活動」を行いました。「少しでも被災された方々の役に立ちたい。」という生徒会執行部の熱い思いから、7月21日から30日の登校時刻に合わせて、玄関で行いました。多くの方々の御協力により、二万八千四百十円集まりました。このお金は、赤い羽根共同募金及び日本赤十字共同募金を通じて、被災地区へ義援金として送られます。御協力ありがとうございました。



## 駅伝練習 激走!



猛暑の中、熱中症や感染症に気をつけながら駅伝練習を頑張っています。体力的にも心配していた1年生ですが、真夏の練習にも慣れ、少しずつ体力がついてきました。現在では、練習にもしっかりとついていけるようになってきました。10月に行われる駅伝大会本番がとても楽しみです。中学生を見かけたら、ぜひ声をかけようしくお願いします。



## 英語の出前授業から

7月31日、五島市教育委員会の椎原先生が来校し、2年生に出前授業をしていただきました。パワー溢れる授業で、子どもたちも意欲的に活動することができました。「反応もよく、とても積極的に楽しかったです。」という感想をいただきました。



## 「挨拶で心を開こう」

「口は心に満ちたものを語る」という言葉があります。「ありがとう」「や」「どうぞ」という言葉は、謙虚さや感謝の気持ちがあつてこそ出てくるものです。挨拶の聞かれない職場や学級は、雰囲気よくないのは当然でしょう。挨拶は次のような気持ちで交わしてこそ、相手とも心が通じ合うのです。

- あ 愛と感謝を込めて
- い いつでも、だれにでも
- さ 先に自分の方から
- つ 続けて、いつまでも

(心を育てるより)  
明日から夏休み。家族はもちろん、お世話になっている地域の方とも心が通じ合う挨拶をしたいですね。